総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および3月16日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」

該当する項目はありません。

１．病院の特色

貴院は初代院長が1876年に開設された150年にもわたる歴史のある病院である。その後1951年に結核療養所として兜山麓療養所を設立、1972年には、かぶとやま病院としてリハビリテーション医療を開始された。1997年には久留米市のリハビリテーション医療を牽引する覚悟で久留米リハビリテーション病院と名称変更をされ、地域のリハビリテーション医療の草分け的な存在である。2006年法人内に福岡県筑後地区介護予防支援センター設置、2024年には独立行政法人自動車事故対策機構のモデル事業として頸髄損傷患者を集中的に受け入れるなど、時代の変化や行政からの要請に対して的確に対応している。また、国土交通省のスマートウェルネス事業により「共生と多様性のまちづくり」ヒュッゲ・山本構想への取り組みを開始されているが、その一貫として社会復帰を目指したリハビリテーションシェアハウスや就労継続支援B型を運営されるなど、幅広い活動を通じて、回復期リハビリテーション病棟退院後の自立支援や社会復帰支援にも注力されており、地域にはなくてはならない存在となっている。

２．良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病棟専任医、病棟マネジャー、療法士主任が協働で病棟運営を行っておられ、療法士も病棟に配属されている。リハビリテーションセンターと病棟は毎朝の管理者ミーティングで課題を共有している。重要な案件は病院運営会議に諮られ、決定事項は管理者から各スタッフに伝達している。リハビリテーション医療に関してはリハビリテーション科専門医２名、臨床認定医１名中心にリハビリテーションセンター、病棟での活動を行っている。患者の安全確保に向けた体制は、医師を含む多職種で構成された医療安全管理委員会が中心に活動している。発生頻度の高い事象については標準的な対応手順を整備し組織的に取り組んでいる。病棟生活や訓練時に起こりうる急変時の対応については手順を整備し、急変時を想定した対応訓練を多職種で実施している。感染対策として、毎月、感染対策チームによるラウンドを行い標準予防策や手指衛生の順守状況、環境点検を行っている。地域特性から重症者の受け入れが多くなっており、自院の一般病棟や療養病棟も活用して的確な医療・介護を提供できる体制を整えている。

３．回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

リハビリテーション科専門医２名、認定臨床医１名を中心に、施設基準を超える人員が配置され、24 時間・365 日切れ目のない専門的なリハビリテーション・ケアが提供できる体制になっている。看護師と介護職それぞれ役割分担を明確にし、退院後の実生活を想定した個別性のあるケアを実践している。看護補助者は６割が介護福祉士の資格を有している。療法士は回復期リハビリテーション協会のセラピストマネジャー2 名、認定理学療法士６名、3 学会合同呼吸療法認定士６名などの専門資格者が勤務している。また、社会福祉士３名が、リハビリテーション・ケアの進捗と患者・家族の意向を踏まえた支援を行っている。管理栄養士は院内 NST 勉強会、全職員研修（リハビリテーション・栄養・口腔管理）を開催し、全職員へ栄養管理の知識を高める機会を作り質の向上に努めている。嗜好アンケート調査（年２回）や残食事率（毎食）のデータ集計を行い、その結果をもとに選択メニューや行事食・新メニューの提供を毎月実施され、摂食率向上の成果をあげている。

４．チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院初日の多職種による合同評価や定期的なカンファレンスの開催により、患者・家族の意向を踏まえたリハビリテーション計画を作成している。各職種は自らの専門性に応じて初期評価を行っており、特に看護師は口腔・栄養・褥瘡・転倒リスクなどのアセスメントを行っている。入院初日の昼食は、看護師・言語聴覚士・管理栄養士が合同で摂食嚥下の評価を行い、食形態と環境調整を行っている。入院患者には原疾患や併存症が重度の患者が多く、リハビリテーション科以外の専門診療科への対診も積極的に行われている。個別リハビリテーション以外にも、看護師や介護職は余暇時間を活用し患者の活動性を高める支援を行っている。また、自宅復帰後の実生活での課題に対して、多職種で情報共有を行い必要な支援内容を検討している。各種カンファレンスが実施されているが、医師の参加は総合カンファレンスのみであり、より積極的なカンファレンスへの参加が望まれる。

1　良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	Ⅱ
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	Ⅱ
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	Ⅱ
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	Ⅱ
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	Ⅱ
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	Ⅱ
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	Ⅱ
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	Ⅱ
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	Ⅱ
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	Ⅱ

2　回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	Ⅱ
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅲ
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.O	作業療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅰ

3　チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	Ⅱ
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	Ⅱ
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	Ⅱ
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	Ⅱ
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	Ⅱ
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	Ⅱ